

大型公立公園に新しい人工土地を造ろう！

一次避難用高架回廊施設、身近な避難場所を求めて

56 回 磯貝三男

ゼロメートル地帯では、普段でもモーターで水を汲み上げて排水しないと町に水が出ることは皆判っていることです。それだけ洪水の危険性がいつも身近にあります。

マンモス堤防構想と言うものがありました。大きな川沿いの周辺の低い土地をかさ上げして、洪水にわずらわされない安全な町を造ろうという、ゼロメートル地帯に住んでいる住民にとって、有意義で魅力的な壮大な計画でした。

洪水という災害は、内水氾濫に止まらず地震による堤防決壊や高潮などいつ起きてもおかしくない、重要課題なのです。

その構想は、既に建っている家や公共施設を移設・新築したり、更にはお墓なども移設しなければならないという、資金的な問題に加え社会道徳的な問題点などが続出し、ごく一部の条件を満たした計画が実現したに止まり、代案事業は実施されないままになっています。

公園は、都市部の緑化、子供の遊び場、市民の運動施設など多くの機能を要求される大切な空間として守らなければいけないところです。しかしながら、現在、土地の収用問題などに時間を取られない、まとまった広さのある公立の公園は、身近な災害対策の候補地として、有効に活用したい空間でもあります。

今まで私はこの両国祭での展示や、淡交会会報の中で何度も提案をして来ましたが、今回も地域にある比較的大きな公立公園の中に、高架の回廊を構築することを改めて提案します。但し、その際も、上記の通り、公園の機能は優先されなければなりません。

まず、その公園ですが、次の通り江東 5 区には都立・区立の大型の公園が意外なほど沢山あります。

江東 5 区の面積約 3,000 m²超えの区立公園数 (5,000 m²超え) は、次の通りです。

(東京都建設局公園調書による。概数、m²、以下同じ)

江東区 64(41)、墨田区 31(17)、葛飾区 50(27)、江戸川区 75(41)、荒川区 12(7)

合計 232 (133) 公園

これらの公園に、昇降棟、貯蔵棟、廊下部分、居住区などを備えた高架回廊を作るという構想（詳細案別記）では、**3,000 m²の 1 公園につき約 250 名の収容が可能**です。5,000 m²超えの公園では 10,000 m²以上の公園が少なくないので、500 人～700 人収容と仮定し、それを加味すると全体では単純合計で **85,000~100,000 名の収容が可能**と考えられます

例えば、各区の 3,000 m²超えの公園には 250 人、5,000 m²超えの公園には 500 人が収容可能とした場合の試算をすると次のように合計人数は 84,750 人になります。

江東区 250 人 x 23 + 500 人 x 41 = 26,250 人

墨田区 250 人 x 8 + 500 人 x 7 = 5,500 人

葛飾区 250 人 x 23 + 500 人 x 27 = 19,250 人

江戸川区 250 人 x 34 + 500 人 x 41 = 29,000 人

荒川区 250 人 x 5 + 500 人 x 7 = 4,750 人

更に都立公園を加えれば、収容可能な人数は飛躍的に増やせると考えます。

都立公園を挙げると次の通りです。使用区分けや立地条件などから考えると、それらすべての公園が対象になると言う訳ではありませんが、その広大さを見ると、避難地としては大変大きな戦力になると考えます。

(総合、運動公園用途のみ。風致、歴史、動植物用途は除く)

(参考：東京ドーム建築面積は約 47,000 m²、そのグラウンドの面積は約 17,000 m²)

江東区

猿江恩賜公園	145,000	運動
夢の島公園	433,600	総合
亀戸中央公園	103,000	総合
木場公園	239,000	広域
東京臨海広域 防災公園	65,200	広域

葛飾区

水元公園	967,000	広域
------	---------	----

墨田区

東白髭公園	103,000	総合
-------	---------	----

荒川区

尾久の原公園	61,800	運動
汐入公園	129,400	総合

最近では、線状降水帯の発生やゲリラ豪雨が所を選ばず報じられるようになり、都市部での浸水により床上浸水や人が亡くなることが増えています。

ゼロメートル地帯に住んだり働いている我々としては、早急に身近な所に安全に避難出来る場所が増えることを期待せざるを得ません。

以上